

消化器外科に、食道がんにて過去に通院された患者さんまたはご家族の方へ （臨床研究に関する情報公開文書）

北海道がんセンターでは、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた患者さんの過去の記録を用いて行います。このような研究は、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」（令和3年3月23日 文部科学省・厚生労働省・経済産業省制定、令和4年3月10日一部改正）の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の問い合わせ先へご照会ください。この研究は、北海道がんセンター倫理審査委員会で承認され、当院の院長より実施の許可を得ております。

【研究課題名】

食道がん完全胸腔鏡下胸腔内吻合（人工気胸による）術における手術体位の検討

【研究機関名・長の氏名】

北海道がんセンター 院長 加藤 秀則

【研究代表者名・所属】

北海道がんセンター 看護師 能登 あゆみ

【研究の目的】

食道がんの手術は近年うつ伏せで手術をすることが一般的になっていますが、うつ伏せでの手術は緊急開胸になった際に、迅速に対応するのが難しいといわれています。そこで当院では、麻酔科医の視点から緊急時でも呼吸や循環などを安全に管理でき、また手術室看護師の視点からは長時間うつ伏せの体位をとることで起こりやすい神経障害や皮膚トラブルの発生を予防しながら、術者が良好な視野で安全に手術が出来るよう「うつ伏せに近い横向き」の体位をとっています。

今回の研究は、食道がん手術において「うつ伏せに近い横向き」の体位をとることで、術野の視野を十分に確保しながら安全を考慮した手術体位をとるために大切なことは何かを検討する機会にしたいと考えています。

【研究の方法】

○対象となる患者さん

食道がんの患者さんで、2021年1月1日から2023年12月31日の間に、食道がんの手術を受けた方。予定症例数は9人を予定しております。

○利用するカルテ情報

診断名、術式、手術記録、看護記録、手術時間

○具体的な研究内容

食道がんにおける手術において、従来のうつ伏せではなく、うつ伏せ寄りの横向きの体位で手術を行うことになった経緯を検証し、より良い手術体位について考察する事を目的とします。診療情報は診療録および、当科における食道がん患者診療データベースより収集しま

す。

○研究結果の公表について

本研究の成果は国内の消化器外科内視鏡研究会で発表する予定です。

この研究について、研究計画や関係する資料、ご自身に関する情報をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体に支障となる事項以外はお知らせすることができます。

○個人情報の取り扱いについて

研究に利用する情報には個人情報が含まれますが、院外に提出する場合には、お名前、住所など患者さん個人を直ちに特定できる情報は削除し、研究責任者が責任をもって適切に管理いたします。研究成果が発表される場合にもあなたのプライバシーは厳重に保護され、あなたの氏名や病名などが他に知られることは絶対にありません。

[研究実施期間]

2023年12月～2024年3月31日

*上記の研究に検体・情報を利用することをご了解いただけない場合は2024年6月1日までに以下にご連絡ください。ご連絡がなかった場合、ご了承いただいたものといたします。ご了解されない場合でも不利益を受けることはありません。なお、すでに解析に使用された情報は研究データから情報を削除できない場合がございますので、ご了承ください。

[連絡先・相談窓口]

北海道がんセンター 消化器外科

担当医師：前田 好章

住所：〒003-0804 札幌市白石区菊水4条2丁目3番54号

電話：011-811-9111

FAX：011-832-0652